

AFPY だより

第 7 号

H27.12.3

Adventure Friendship Program in Yamaguchi

山口県教育庁 義務教育課
社会教育・文化財課

「学級目標って
覚えていますか？」

先日、大学生約30人とお話しできる機会がありました。将来、山口県で教職に就くことを志望している方々です。

その場で、次のような質問をしました。

「自分が小学生だった頃の学級目標を言える人っていますか？」

さて、何人おられたと思いますか？

「どの学年の時の目標でも構いませんよ」と前置きしたうえで尋ねたところ、覚えておられたのは5人でした。(中には「学級目標、あったような、なかったような…」という声も聞かれました。)5人の方は、「〇年生の時、こういう目標でした」と、堂々と学級目標を紹介してくださいました。

大学生からの
学び

これまで、小・中・高等学校でいくつもの“学級生活”を経験されているので、小学生時限定での【30人中5人】という数字が5人“しか”なのか、それとも5人“も”なのかは分かりません。ただ、中には小学校中学年、つまり10年以上も前の目標をすらすらと伝えてくださる方もおられ、懐かしそうに、そしてうれしそうに話される姿を見ながら、きっと充実した学級生活だったのだろうと、素敵に感じました。

ちなみに、5人の方に、なぜ何年も経っているのに当時の学級目標を覚えているのかを尋ねたところ、

「語呂が良かったから」「毎日帰りの会の時にクラス全員でふりかえっていたから」「目標の言葉に自分が考えた言葉が入っていたから」とのことでした。いかに、学級目標が自分たち自身のものになっているかどうかが、10年以上経っても覚えている、覚えていないに関係すると感じました。



学級目標を
中心に据えて

早いもので今年一年をふりかえる時期となりました。学級目標を中心に据えながら、これまでの学級の歩みを子どもたちとふりかえてみませんか?そのことで、改めて自分や仲間そして学級の良さ、自分たちの成長に気づき、さらにこれからの課題への意識につながるものと思います。

さて、裏面では、3学期をスタートさせるにあたっての実践事例を御紹介いたします。

「AFPY実践の集い～百問は一体験に如かず～」の御案内 (体験を通じた研修。申込必要)

日時： PART 1 平成28年1月 9日(土)

PART 2 1月23日(土) 両日とも9:30～16:00 (参加費無料)

会場：山口県セミナーパーク

※詳しくは社会教育・文化財課ホームページまたは「AFPY」で検索

AFPY |

検索

学年末へ向けて学級の足あとをふりかえり、
ゴールへの道筋をイメージする。

《ねらい》 クラスの目標を意識して、学年末の学級の姿をイメージする。

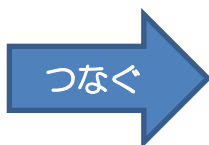
『フライングチキン』

教科・領域等	特別活動（学級活動）	時間	40分程度
準備物	ラバーチキン（ボールでも可。クラスで大切にしてきたことや目標の象徴）シート（ゴミ袋でも可）、スタート・ゴールの目印		
活動の実際 ※留意点	<p>①4人グループで1枚のシートを持つ。</p> <p>②直接ラバーチキンに触れずに、シートを使って各グループが互いにパスをし合い、自分たちの決めたゴールまで運ぶ。チキンがいるシートを持ったグループはその場所から動けない。</p> <p>※ ラバーチキンは、学級で今まで大切にしてきたことの象徴にする。</p> <p>※ 活動の間に、話し合いを取り入れる。</p> <p>※ 結果よりも過程を大切に、チャレンジレベルを変えてもよい。</p> <p>例）「制限時間を設ける。」「アップダウンのあるコースにする」など</p> <p>※ 高く飛ばせる場所で行うと楽しいが、コースの安全に気をつける。</p>		
ふりかえり	<p>○どんな気持ちで、チキンを飛ばしたりキャッチしたりした？</p> <p>○うまくいくためにお互いにしたことはどんなこと？</p> <p>○「大切にしたいこと」が見えた（聞こえた）場面があった？</p>		
継続的な活用	<p>「ふりかえり」の言葉をピーニング（学級目標）等に反映させて見える化させるなど、日頃の学校・学級生活や行事に結びつけて、学年末へ向けて子どもたちの「めざすゴール」の姿への意識づけを図っていく。</p>		
子どもたちの感想や変容等	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対に落とさないように声をかけた。 ・失敗しても、文句を言う人がいなかったからみんな笑顔だった。 ・次のグループが取りやすいように声をかけて、高めに飛ばした。 ・苦手なグループ（人）に合わせる事が大事だった。 ・他のグループの励ましがうれしかった。 ・みんなで（ゴールまで運ぶことが）できたのですごくうれしかった。 		
実践者からのひとこと	<p>3学期になると、学年末という学級のゴールも間近に感じられます。そんな時に今までの学級の道筋を確かめて、どんな姿でゴールを迎えたいのかを考えイメージを共有していくことは、学級の子どもの一体感を高めていく上でもとても大切だと思います。アクティビティだけでなく、学級の生活の中に「つなぐ」意識がポイントだと感じています。</p>		

（下関市立清末小学校 矢頭秀将先生による実践）



フライングチキン



学級の生活の中に